

薬剤師の資質として求められるもの

—改訂モデル・コア・カリキュラムに見る薬学教育への期待

座長
日本薬剤師会常務理事
和歌山県薬剤師会常務理事

亀井美和子
竹谷美賀子

薬学教育モデル・コア・カリキュラム(2022年度改訂版)が今年2月に公表され、薬科大学・薬学部に来年度(24年4月)に入学する6年制課程の学生から適用となる。今般の改訂コアカリは、今後の社会構造の変化を踏まえて、医療人として安全で質の高い医療を提供し、公衆衛生の向上と増進に寄与できる薬剤師を育成するための内容となっている。

改訂コアカリでは、現行コアカリの「卒業時に必要とされる薬剤師として求められる基本的な資質」が改められ、「生涯にわたって目標とする薬剤師として求められる基本的な資質・能力」が掲げられた。また、GIO・SBOsが廃止されて概念化された「学修目標」が提示されるなど、学修成果基盤型教育の新展開が行われている。

本分科会では、まず、全般にわたって改訂を主導した文部科学省教育局医学教育課薬学教育専門官の大久保正人氏に登壇いただき、基調講演として「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の経緯と現状」をお話しいただく。

続くシンポジウムでは、改訂に関わった和歌山県立医科大学薬学部教授の平田収正氏と日本薬剤師会常務理事の長津雅則氏、厚生労働行政推進調査事業で卒後研修カリキュラムに関する調査研究に取り組んでおられる名古屋大学医学部附属病院教授・薬剤部長の山田清文氏に登壇いただく。

薬学教育は全ての薬剤師の関心事であるが、特に、来年度に入学する薬学生を実務実習生として薬局・病院で受け入れて指導に関わる立場、卒後の研修生を受け入れて指導に関わる立場の方々においては十分な理解が必要である。本分科会への参加を通じて、薬学教育の今後の方向性、大学の内部質保証や卒後研修について、理解を一層深める機会としていただきたい。

(亀井美和子)

小児の在宅医療における薬剤師の役割

座長
日本薬剤師会理事
和歌山県薬剤師会常務理事

川名三知代
金子雅好

小児の在宅医療で出会う疾患は重症かつ稀少性が高く、薬学的ケアに関する情報を共有できる場もほとんどない。それでも、この領域に一步踏み込めば「何かできることはないか」と問い続け、薬剤師としての責任感と使命感に駆られるから不思議である。

近年の小児医療の進歩により、重症の難治性疾患の小児も病院での急性期治療を終えて、人工呼吸管理や栄養管理等の医療的ケアを継続しながら在宅生活へ移行する機会が増加し、医療的ケアを継続しながら成長する小児(医療的ケア児)の在宅医療のニーズが高まっている。2016年5月に障害者総合支援法が改正され、医療的ケア児や家族への制度的な支援が始まり、21年6月の医療的ケア児支援法の成立により支援の動きは加速されつつある。22年の調剤報酬改定では医療的ケア児に対する薬学的管理が評価され、小児特定加算も新設された。

医療的ケア児の原疾患は様々だが、日常的に医療機器を必要とするため通院が困難であり、自宅での継続的な医療的ケアを支える家族への支援が喫緊の課題となっている。21年に日本薬剤師会が実施した医療的ケア児に対する薬学的ケアの実態調査からは、全国各地で医療的ケア児に対する院外処方箋が発行され、保険薬局では幅広い年齢層の医療的ケア児に対応していることが分かった。

その薬学的ケアは薬剤師の訪問と直結するものではないが、重症度が高い場合に在宅患者訪問薬剤管理指導のニーズが高いことも示された。また、適切な剤型の医薬品が供給されない小児領域において薬剤師は、曝露対策の設備も整わない中で、薬理活性の高い医薬品の加工や散剤調剤に取り組み、患者安全や家族のQOL改善および維持に直結する薬学的ケアを行っていた。

本分科会では、医療的ケア児を含めた小児に対する在宅医療における薬剤師の関わりについて、社会的状況を理解し、先駆者たちの経験を共有する。そしてこれから何をすべきか一緒に考える機会としたい。

(川名三知代)

コロナ禍で芽生えた 新たな薬剤師業務を考える

座長
日本薬剤師会理事
和歌山県薬剤師会常務理事

村杉紀明
江口暢洋

2020年の1月から始まったわが国での「新型コロナウイルスパンデミック」において、全国の薬剤師は患者の自宅や宿泊療養施設等で様々な医薬品等の供給を担ったほか、ワクチン接種支援、抗原検査キット販売、ワクチン・検査

パッケージ対応など、自治体や医療機関等との連携のもと長期間にわたる地域住民支援を実践してきた。このことは、第8次医療計画の新興感染症対応等に数多く薬剤師や薬局の役割が明記されるようになったことや、改正感染症法に基づく各地域での感染症医療および通常医療の提供体制構築に向けた協議へとつながった。

社会における薬剤師・薬局の責任や役割に期待が膨らむ中、本分科会ではまず、基調講演で中井清人厚生労働省

医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長に、新たな薬事承認のあり方や医薬品の価値を高めるために求められる薬剤師の役割などを講演いただく。続いて、永田泰造東京都薬剤師会顧問からは、知られざるダイヤモンドプリンセス号における医薬品の供給体制や薬剤師班支援活動の実態を、泉憲政兵庫県薬剤師会理事には自宅や宿泊療養施設の患者対応調査の結果を報告いただく。

続いて、松浦正佳大阪府薬剤師会常務理事にはワクチン接種の担い手について予防接種研修プログラムに基づいた研修会を開催した立場で講演いただき、井端浩之和歌山県薬剤師会理事には薬剤師が行ったコロナウイルスの検

査事業に携わった経験や必要な対応などを講演いただく。

薬剤師が持っている知識や経験を発揮するために必要なことは何か、今まで販売したくてもできなかった感染症検査キットの販売を医療機関等と連携して対応することやワクチン接種の担い手になった先には何が見えるのか、困難な状況であっても時代の要請に応え続けると薬剤師を取り巻く環境にどのような変化が生じるのかなど、本分科会ではコロナ禍での対応を題材としているが、国民のために薬剤師サービスを発揮する未来全体について参加者と共に考える分科会にしたい。

(村杉紀明)

第56回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)

CRECON
RESEARCH & CONSULTING

クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社

代表取締役社長 木村 仁

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目一階五番

電話 〇三(三四〇七)二〇一四番

社団法人 日本薬局協励会

会長 佐野 智

〒151-0053 渋谷区代々木三丁目四六一番一

電話 〇三(三三七〇)七一七一

JACDS

社団法人 日本チェーンドラッグストア協会

会長 池野 隆光

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台二丁目九番

FAX 電話 〇三(六二七三)七三三五番

JPEC

公益社団法人 日本薬剤師研修センター

理事長 矢守 隆夫

〒105-0003 東京都港区西新橋二丁目三番

電話 〇三(六四七五)九〇四一番

CP Japan

公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構

代表理事 安原 真人

〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目九番二

電話 〇三(三三五一)九八三番

ジャピック JAPIC

一般社団法人 日本医薬情報センター

会長 村上 貴久

〒150-0002 渋谷区渋谷二丁目一五(長井記念館)

電話 〇三(五四六六)一八一一番

URL: <https://www.japic.or.jp>

PMRJ

Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science Society of Japan

社団法人 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団

会長 奥田 晴宏

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目一五(長井記念館)

FAX 電話 〇三(三四〇〇)五三三八番

JSHP

一般社団法人 日本病院薬剤師会

会長 武田 泰生

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目一五(長井記念館)

FAX 電話 〇三(三四〇六)五三〇三番